

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0191300029		
法人名	医療法人やわらぎ		
事業所名	グループホーム共栄の郷		
所在地	北海道北広島市共栄町4丁目11-1		
自己評価作成日	平成25年1月7日	評価結果市町村受理日	平成25年2月12日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kajokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2011_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0191300029-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022">http://www.kajokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2011_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0191300029-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成25年1月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様を中心とした家事参加やレクリエーション、外出など心のケアを重んじスタッフが一緒に関わりながら生活のサポートを行うように心掛けている。地域や町内会の大きな協力もあり行事や避難訓練の参加を通しての交流、理解を得ることができ、今後もますます得られるように取り組んでいる。地域の小学校や老人クラブとの交流もあり、建物自体が通学路に面していることから入居者様と小学生、近隣住民との挨拶は元より小学生がホームでの体験学習を行う等の交流ができるようになってきている。スタッフ配置として家庭の主婦が20代～70代と全年齢層、男性女性が揃っており幅広いことから半家族的で家庭的な雰囲気や環境作りに努めている。ご家族様の他ご友人の面会も多く、それに伴い外出や外泊も多く見られている。またホームとしてとても有難く感じており、ますます来やすい雰囲気作りに励んでいきたいと思っている。母体が医療法人の為、医療に関して24時間365日対応を行っており、状況に応じて入院対応を行っているので、ご家族様から安心の声を多く頂いている。当グループホームは他事業所(通所介護・居宅介護支援事業所)と併設されており複合施設の中にある利点から、事業所間での連携が日々あり、利用者様・入居者様の社会交流の場として活用されている。認知症という一般的な偏見が通所サービスの利用者様、そのご家族、地域住民の方々を通し緩和され理解されつつある。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホーム共栄の郷」はバス停留所から徒歩で2分ほどの、閑静な住宅地に立地している。近くに、区が管理しているパークゴルフ場や地域の会館があり、住民との交流や地域との関係作りに適した環境にある。2階建の1階には同法人のデイサービスが併設しており、利用者間の交流やデイサービス時間外の施設を有効に活用し、冬季の運動量にもつながっている。当事業所は医療法人を母体に、医療と介護の連携の下で、地域で生活ができるように平成10年4月に、北広島に開設した新しい事業体である。町内会との協力関係を築き、利用者は町内会行事に参加し、近所の人と一緒に事業所の畑づくりをしたり、近くのパークゴルフ場に遊びに行くなど、地域に浸透して交流を深めている。特に小・中学校の定期的な体験学習による顔馴染みの関係は利用者の楽しみになっている。昨年の管理者交代の下で、職員は内外の研修で認知症ケア、感染症、身体拘束廃止などを学び理念を意識して利用者に寄り添い、しっかりと向き合うケアを行っている。マニュアル、書類なども整備されている。医療法人病院を母体とする協力医と常に相談できる協力関係の下で健康管理を行い、災害時には法人の協力体制で安全な基盤を作っている。今後は災害対策で地域との協力体制づくりを広げたい意向である。

V. サービスの成果に関する項目(1Fいぶきアウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評(1Fいぶき)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入職時にオリエンテーションを必ず行い理念を説明している又職員がいつでも確認出来るよう掲示している。	理念の中に、地域の一員として参加していく内容を盛り込み、行事計画にも意識して取り入れている。特に利用者の思いに沿ったケアが行われているかをミーティングで確認している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議を通し、町内会主催の夏祭り参加やホーム主催のバーベキュー行事に地域住民参加、小学生のホームでの体験学習実施など具体的に交流が持てるようになってきている。	町内会行事に参加する一方、併設している同法人デイサービスと合同のバーベキュー行事には町内会役員や近所からの参加があり、双方間の交流になっている。小・中学校の体験学習が年に数回あり、昔の遊びを生徒に教えるなど、顔馴染みの関係になっている。地域ボランティアの楽器演奏も定期的にある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホームでの日々の出来事を広報誌として毎月発行し家族、他事業所に配布している。その他運営推進会議にも用いて、エピソードを交えながら説明を行い理解が得られるように努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎月発行している広報誌を下に入居者様の状況、活動報告等を行い、活動に対しての評価、助言、ご協力を頂きながら意見交換の場としても活用している。	会議には市の職員もメンバーになり、情報交換の場になっている。運営状況、行事、サービス評価の結果、また災害対策などの報告で、意見を参考にしている。全家族に議事録を送付しているが、テーマに沿った意見を頂くような会議案内の送付も考えている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議、GH連絡会等で相談、アドバイスを担当者から頂いている又市からの連絡事項などはメールでやり取りを行っている。	グループホーム連絡会に参加し、行政担当からの情報を運営の参考にしている。運営推進会議に参加している担当者とは常に相談できる関係を築き、生活保護課担当者とも連絡を密にしている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束マニュアルでの把握、研修会の参加で知識を深め、拘束を行わない様努めている。また日々のケアの中で疑問時、必要時は随時検討の場を設け取り組んでいる。	身体拘束禁止の対象となる具体的な行為をマニュアルに記載し、法人研修会でも学び、拘束の弊害を理解している。また禁止語は一切使わない対応を心がけている。幹線道路に面している事情から、内側のドアを施錠しているが、利用者の言動を察知し、束縛を感じないように対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内研修や外部研修等の参加により虐待防止に努めている。		

グループホーム 共栄の郷

自己評価	外部評価	項目	自己評(1Fいぶき)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内研修にて実施することができており、欠席した職員がいる場合についてはミーティングにて伝達研修を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結時、契約書・重要事項説明書に沿った説明を行い、都度疑問、質問に答え確認しながら判り易く説明を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	請求書送付時ご意見用紙を同封し法人内の苦情対策委員会当てまで送付出来るようにしている又玄関先にご意見箱を設置している。	年に1回法人で家族アンケートを実施し、取りまとめた内容を事業所で話し合いサービスに活かしている。家族の来訪時には聞く姿勢で対応し、意見などは申し送りノートや介護記録の特記に記載している。さらに個人毎の記録方法で、家族のささいな思いをも把握したい意向である。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体ミーティングの機会を設け意見交換や、提案を受け検討、反映に繋げていけるよう努めている。	職員の日々の意見もミーティングの議題にして、業務の流れやケアについて意見を交換し、活発な意見交換の場になっている。統括所長は年に2回の面談を行い、個人目標達成度のアドバイスや個人的な希望の相談に乗り、働きやすいように配慮している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員の実績、努力について半年毎に行っている職員自己評価、目標設定、職員評価に基づき把握に努めている。給与水準、労働時間は法人との連携を図り行っている。また、職員が働きやすいように状況に応じて随時面接を行い職場環境・条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修会は定期的に行っているため職員がまんべんなく参加出来るようにシフトを調整し、促しを行い外部の研修にも参加出来るよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	月1回定期で会議を開き、情報交換、活動報告を行っている。2カ月に1度市内のGH連絡会で他同業者との意見交換、勉強会などの情報交換を行いサービス向上に取り組んでいる		

自己評価	外部評価	項目	自己評(1Fいぶき)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人との面談を必ず行い困りごと、不安な事を傾聴、若しくは様子観察を行い顔見知りの関係を築いてから入居受け入れしている。また入居後も安心して暮らせるよう傾聴や様子観察に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にご本人同様ご家族とも面談を必ず行い、相談の時点から困っている事、不安、要望を傾聴し、ご家族との関係が良い方向でスムーズになるような関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に必ず面談を行い今現在困っていることの把握に努め、複合施設内の事業所、法人内にある老健、病院等と連携を図り支援できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者、職員共に家事全般調理、掃除、洗濯、買い物等一緒に行い、助け合いながら生活していけるように、入居者様には手伝って頂いた後は必ずお礼、感謝の言葉を伝えている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日々のケアの中で状態変化が見られた時は家族に報告、相談を行っている。又面会時は職員から生活状況をお伝えすることにより、家族が話しやすい雰囲気を作れるよう努めている。また家族より生活歴を伺うことで対応のヒントに繋がるのが自然に出来るようになっている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族やご友人など身近で馴染みであった方が面会に来て下さることがご本人の安心に繋がることの説明をしている。行きつけの洋品店やお店など、要望があった時はなるべく随時対応できるように努めている。	近所の人、また以前に働いていた職場の人が頻繁に会いに来たり、外出の誘いで、友人と一緒に食事を楽しむ利用者もいる。希望に応じて地域の書店や図書館に職員が同行している。散歩中に馴染みの美容室の人から声をかけられることもあり、馴染みの場や関係を積極的に支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	各個人の性格、状態を把握し会話が苦手な方には職員が間に入りコミュニケーションがスムーズに図れるよう努めている。又入居者様同士で良い人間関係が築けるよう様子観察を行い、職員がフォロー出来るよう努めている。		

グループホーム 共栄の郷

自己評価	外部評価	項目	自己評(1Fいぶき)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	法人のソーシャルワーカーとも連携を図り退去後も、本人、家族が困らない様相談、支援に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	暮らしの希望、意向には努めており、困難な場合は家族とも相談し出来るだけ本人が満足できるよう支援を行っている。	意向や暮らしの情報をアセスメントに載せ、更新時に作り直して介護計画に反映させている。日々の会話や言葉を表出できない場合は表情から察して、個人の思いに沿って対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の面談時、家族が面会に来られた時、日常の会話の中から生活歴、馴染みの暮らし方等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の様子観察を通し把握に努め、必要随時のミーティングの中で職員間の情報共有を行っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的又は状態変化時、モニタリング、カンファレンスを開き又家族の希望、要望を取り入れながら介護計画を作成している。	介護計画は利用者の状態に沿って3~6か月毎に見直している。利用者担当が利用者の状態をセンター方式のアセスメントシートでチェックする方法を進めているところである。それらを基にモニタリング、更新計画を作成し、カンファレンスで内容を確認後に、家族に説明し同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は生活記録に記録し毎日のミーティングで報告、職員間で情報は共有し実践している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	多くのニーズに対応出来るよう、併設のデイサービス、リハビリの専門職、主治医との連携を図り対応していけるよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	楽器演奏等のボランティア、デイの利用者様との交流、町内会行事参加、小学校との交流などを通し豊かな生活が送れるよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回訪問診療の他、定期的な検査、身体的状態変化時は24時間対応で適切な指示が受けられ、安心して暮らせるよう支援している。又契約前にご家族、ご本人に説明を行い、了承を受けている。	医療法人病院を母体とする協力医と協力関係の下で健康管理に努めている。定期的な歯科医の訪問もある。専門的な他科受診時には、家族の事情によっては職員が同行している。受診記録は個人毎に記録し経過を共有している。	

グループホーム 共栄の郷

自己評価	外部評価	項目	自己評(1Fいぶき)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	身体的状態変化が見られた時はかかりつけ医の看護師、併設事業所の看護師と連携を図り24時間、適切な指示を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	介護添書、情報提供書の提供又面会等で本人の状態を看護師、ソーシャルワーカーに確認し情報交換、相談がスムーズに出来るよう努めている。家族との連絡、相談も行い出来るだけ早期に退院出来るよう、安心して治療が出来るよう努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約締結前に書面でご本人、ご家族には説明しているがまだ該当者がいない為地域の関係者と共にチームで取り組むまでは行っていない。	「重度化に関する対応指針」に「看取り介護の視点」を盛り込み、利用契約時に同意を得ている。状態の変化に応じて家族とも方針を確認している。終末期ケアを行うことも視野に入れ、医療行為が継続する場合は入院の方向になっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応マニュアル、緊急連絡網等の作成はできている。緊急時対応としての研修には参加しているが全職員が実践力を身に付けているまでには至っていない。今後、全職員が対応できるよう勉強会、訓練を行っていきたい。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	複合施設内事業所と共に日中想定避難訓練、夜間想定避難訓練、部分訓練、消防署主催の夜間想定避難訓練参加も行い努めている。地域からは避難場所や避難グッズ等の提供や訓練参加があり協力体制が築けている。	消防署の立会いで併設しているデイサービスと合同で日中を想定した避難訓練を実施している。2月に予定している、夜間を想定した訓練に住民の参加を働きかけている。数名の職員は地域の消防署主催の救急救命訓練を受講しているが、新規採用の職員は未受講である。災害時の備蓄品類も備えているが不十分な面もみられる。	夜間を想定した避難訓練には、住民の役割を明確にしての参加を期待したい。また地震などの災害や緊急時に地域との協力体制づくりに期待したい。業所内でも地震などを想定したシミュレーションの実施、備蓄品類の見直し、全職員の救急救命訓練の受講など、計画的に進められることを期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の入居者様に合わせ人格を否定しないよう配慮した言葉かけを行うよう職員間で意識し対応するよう努めている。	生活歴や職歴を基に本人の誇りを護る言葉かけをしている。時には、人間関係を築くためにユーモアを交えた会話をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中で、自己決定や意思表示が表出できるように個々の特徴を捉え向き合い対応できるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日入居者様に合わせて業務を調整するよう努めているが、どうしても業務を行わなければならない時は入居者様に説明、断りを入れ後日又は時間をずらし希望に添えるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々の特徴を捉え本人好みの髪型、服装、色等が自由に着れるよう支援している。生活習慣で化粧水や整髪剤を使用している方には継続し、職員間でも情報共有し声掛けや促しを行っている。		

グループホーム 共栄の郷

自己評価	外部評価	項目	自己評(1Fいぶき)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材も配達されメニューも決まっているが、食材確認、収納、準備から片付けまで一緒に取り組んでいる。またメニューのリクエストが出た時は状況に応じてメニュー変更を行い買物から一緒に対応している。	法人の栄養士が献立を作成し、業者に食材の配達を依頼している。畑で収穫したじゃが芋で芋団子を作る楽しみもある。誕生日には、本人の希望する食事でお祝いをしている。利用者は、炒め物や味付け、盛りつけ簡単な調理などを職員と一緒にやっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日を通しての摂取、飲水量がわかるように記録に記入している。また個々の好みに対応できるよう飲み物の種類を多くし、好きな時に自分で入れて飲めるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後3回入居者様の状態に合わせた声掛け、促しで口腔ケアを行っている。また訪問歯科の定期検診により口腔内チェックも行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表にて個々の排泄パターンを把握し個々の特徴や状態に合った声かけや介助を行うように努めている。	ほとんどの利用者は、布のパンツに尿とりパッドを使ってトイレで排泄している。意思を伝えることが難しい利用者は、動作を観察することで尿意を把握し、トイレでの排泄を介助している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表にて個々の排便パターンの把握に努め、水分、食物繊維、乳酸類の提供、毎日の体操、生活の中の運動促進等を行い便秘の予防に努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	職員の人数の関係で大体の入浴時間は決まっているが午前中、夕方など本人の気分や状況に合わせて入浴を楽しめるよう支援している。	週に2~3回は、入浴をしているが曜日は決めず、その日の気分で入れるようにしている。同性介助を原則として森林浴の入浴剤などを使い、お風呂の時間を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人のペースで生活出来るよう、休みたい時には自室やリビングなど場所にとらわれず休めるように、就寝前は穏やかなコミュニケーションを図り、夜間は電気を落とし静かな雰囲気での良眠出来るよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医療用綴りを作成し、職員一人一人が服用している薬、副作用の把握に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の生活歴、趣味を把握し家事、レク、外出、買物等の支援に努めている。		

グループホーム 共栄の郷

自己評価	外部評価	項目	自己評(1Fいぶき)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご本人の要望に応じて外出できるよう努めているが、天候や状況により翌日等にずれることがある。普段行けないような場所については普段の会話から行きたい場所等を伺い、面会時ご家族に説明、了承を得てから外出を行っている。	夏季は、事業所の周辺の散歩や、庭に椅子を置いて日光浴をしたり、個別の外出をしている。お花見や日帰り温泉、森林浴ドライブに出かけている。冬期は、受診が外出の機会となっているが、併設しているデイサービスのフロアで運動会を開催し、楽しみのひとつとなっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理ができる入居者様はご家族と相談の上、自己管理して頂いている。普段金銭管理してなくても外出時レジでの支払い、お釣りの受け取りが可能な場合はお財布を持って頂き使えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人からは遠慮があつてなかなか言い出せない場合がほとんどの為、職員から声掛けや促しを行うよう支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	物が乱雑にならないように配慮し、常に清潔を保持できるように心掛けている。皆が集うリビングでは一緒にテレビが見易く談話し易い家具配置を工夫している。季節ごとに花を飾ったりして居心地良く過ごせるように工夫している。	廊下の床材や照明器具、茶系で統一した引き戸など高級感のある和風の落ち着いた設えとなっている。廊下の壁には、利用者が作った塗り絵や切り絵などを飾り、日めくりを複数の場所に掛けている。居間のソファに座ると台所が見え、大きな窓から自然光が入る家庭的な環境づくりをしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食卓テーブルでは気の合うもの同士が座れるよう、ソファではゆっくり新聞が読めたり横になれるよう、台所は間口を広くし家事の作業台を置き入居者様を使いやすいよう工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の時に馴染みの家具、持ち物を持参されるよう伝え、本人が落ち着ける居室で過ごせるよう支援している。	居室は、廊下の両側に配置され一般住宅に見られるような縦書きの表札を掛けている。本人が親しんできた書籍やアルバム、筆筒やテレビを置き、掃除道具などの生活用品を整えることで自立支援の居室づくりをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室前には表札を付け、トイレの鍵は判りやすいように、開ける閉めると表示、ドアは開けやすいように引き戸になっている。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0191300029		
法人名	医療法人やわらぎ		
事業所名	グループホーム共栄の郷		
所在地	北海道北広島市共栄町4丁目11-1		
自己評価作成日	平成25年1月7日	評価結果市町村受理日	平成25年2月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「1Fいぶき」に同じ
------------

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2011_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0191300029-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2011_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0191300029-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成25年1月18日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(2Fうらアウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2Fうらら)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入職時にオリエンテーションを必ず行い理念を説明している又職員がいつでも確認出来るよう掲示している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議を通し、町内会主催の夏祭り参加やホーム主催のバーベキュー行事に地域住民参加、小学生のホームでの体験学習実施など具体的に交流が持てるようになっている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホームでの日々の出来事を広報誌として毎月発行し家族、他事業所に配布している。その他運営推進会議にも用いて、エピソードを交えながら説明を行い理解が得られるように努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎月発行している広報誌を下に入居者様の状況、活動報告等を行い、活動に対する評価、助言、ご協力を頂きながら意見交換の場としても活用している。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議、GH連絡会等で相談、アドバイスを担当者から頂いている又市からの連絡事項などはメールでやり取りを行っている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束マニュアルでの把握、研修会の参加で知識を深め、拘束を行わない様努めている。また日々のケアの中で疑問時、必要時は随時検討の場を設け取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内研修や外部研修等の参加により虐待防止に努めている。		

グループホーム 共栄の郷

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2Fうらら)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内研修にて実施することができており、欠席した職員がいる場合についてはミーティングにて伝達研修を行っている。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結時、契約書・重要事項説明書に沿った説明を行い、都度疑問、質問に答え確認しながら判り易く説明を行っている。			
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	請求書送付時ご意見用紙を同封し法人内の苦情対策委員会当てまで送付出来るようにしている又玄関先にご意見箱を設置している。			
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体ミーティングの機会を設け意見交換や、提案を受け検討、反映に繋げていけるよう努めている。			
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員の実績、努力について半年毎に行っている職員自己評価、目標設定、職員評価に基づき把握に努めている。給与水準、労働時間は法人との連携を図り行っている。また、職員が働き易いように状況に応じて随時面接を行い職場環境・条件の整備に努めている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修会は定期的に行っているため職員がまんべんなく参加出来るようにシフトを調整し、促しを行い外部の研修にも参加出来るよう努めている。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	月1回定期で会議を開き、情報交換、活動報告を行っている。2カ月に1度市内のGH連絡会で他同業者との意見交換、勉強会などの情報交換を行いサービス向上に取り組んでいる			

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2Fうらら)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人との面談を必ず行い困りごと、不安な事を傾聴、若しくは様子観察を行い顔見知りの関係を築いてから入居受け入れしている。また入居後も安心して暮らせるよう傾聴や様子観察に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にご本人同様ご家族とも面談を必ず行い、相談の時点から困っている事、不安、要望を傾聴し、ご家族との関係が良い方向でスムーズになるような関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に必ず面談を行い今現在困っていることの把握に努め、複合施設内の事業所、法人内にある老健、病院等と連携を図り支援できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者、職員共に家事全般調理、掃除、洗濯、買い物等一緒に行い、助け合いながら生活していけるように、入居者様には手伝って頂いた後は必ずお礼、感謝の言葉を伝えている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日々のケアの中で状態変化が見られた時は家族に報告、相談を行っている。又面会時は職員から生活状況をお伝えすることにより、家族が話しやすい雰囲気を作れるよう努めている。また家族より生活歴を伺うことで対応のヒントに繋がるのが自然に出来るようになっていく。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族やご友人など身近で馴染みであった方が面会に来て下さることがご本人の安心に繋がることの説明をしている。行きつけの洋品店やお店など、要望があった時はなるべく随時対応できるように努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	各個人の性格、状態を把握し会話が苦手な方には職員が間に入りコミュニケーションがスムーズに図れるよう努めている。又入居者様同士で良い人間関係が築けるよう様子観察を行い、職員がフォロー出来るよう努めている。		

グループホーム 共栄の郷

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2Fうらら)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	法人のソーシャルワーカーとも連携を図り退去後も、本人、家族が困らない様相談、支援に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	暮らしの希望、意向には努めており、困難な場合は家族とも相談し出来るだけ本人が満足できるよう支援を行っている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の面談時、家族が面会に来られた時、日常の会話の中から生活歴、馴染みの暮らし方等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の様子観察を通し把握に努め、必要随時のミーティングの中で職員間の情報共有を行っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的又は状態変化時、モニタリング、カンファレンスを開き又家族の希望、要望を取り入れながら介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は生活記録に記録し毎日のミーティングで報告、職員間で情報は共有し実践している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	多くのニーズに対応出来るよう、併設のデイサービス、リハビリの専門職、主治医との連携を図り対応していけるよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	楽器演奏等のボランティア、デイの利用者様との交流、町内会行事参加、小学校との交流などを通し豊かな生活が送れるよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回訪問診療の他、定期的な検査、身体的状態変化時は24時間対応で適切な指示が受けられ、安心して暮らせるよう支援している。又契約前にご家族、ご本人に説明を行い、了承を受けている。		

グループホーム 共栄の郷

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2Fうらら)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	身体的状態変化が見られた時はかかりつけ医の看護師、併設事業所の看護師と連携を図り24時間、適切な指示を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	介護添書、情報提供書の提供又面会等で本人の状態を看護師、ソーシャルワーカーに確認し情報交換、相談がスムーズに出来るよう努めている。家族との連絡、相談も行い出来るだけ早期に退院出来るよう、安心して治療が出来るよう努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約締結前に書面でご本人、ご家族には説明しているがまだ該当者がいない為地域の関係者と共にチームで取り組むまでは行えていない。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応マニュアル、緊急連絡網等の作成はできている。緊急時対応としての研修には参加しているが全職員が実践力を身に付けているまでには至っていない。今後、全職員が対応できるよう勉強会、訓練を行っていききたい。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	複合施設内事業所と共に日中想定避難訓練、夜間想定避難訓練、部分訓練、消防署主催の夜間想定避難訓練参加も行い努めている。地域からは避難場所や避難時グッズ等の提供や訓練参加があり協力体制が築けている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の入居者様に合わせ人格を否定しないよう配慮した言葉かけを行うよう職員間で意識し対応するよう努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中で、自己決定や意思表示が表出できるように個々の特徴を捉え向き合い対応できるように努めている。カレンダー作りや装飾づくりなど職員と共に行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日入居者様に合わせて業務を調整するよう努めているが、どうしても業務を行わなければならない時は入居者様に説明、断りを入れ後日又は時間をずらし希望に添えるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々の特徴を捉え本人好みの髪型、服装、色等が自由に着れるよう支援している。生活習慣で化粧品や整髪剤を使用している方には継続し、職員間でも情報共有し声掛けや促しを行っている。		

グループホーム 共栄の郷

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2Fうらら)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食材も配達されメニューも決まっているが、食材確認、収納、準備から片付けまで一緒に取り組んでいる。またメニューのリクエストが出た時は状況に応じてメニュー変更を行い買物から一緒に対応している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日を通しての摂取、飲水量がわかるように記録に記入している。また個々の好みに対応できるよう飲み物の種類を多くし、好きな時に自分で入れて飲めるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後3回入居者様の状態に合わせた声掛け、促しで口腔ケアを行っている。また訪問歯科の定期検診により口腔内チェックも行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表にて個々の排泄パターンを把握し個々の特徴や状態に合った声かけや介助を行うように努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表にて個々の排便パターンの把握に努め、水分、食物繊維、乳酸類の提供、毎日の体操、生活の中の運動促進等を行い便秘の予防に努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	職員の人数の関係で大体の入浴時間は決まっているが午前中、夕方など本人の気分や状況に合わせて入浴を楽しめるよう支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人のペースで生活出来るよう、休みたい時には自室やリビングなど場所にとらわれず休めるように、就寝前は穏やかなコミュニケーションを図り、夜間は電気を落とし静かな雰囲気での良眠出来るよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医療用綴りを作成し、職員一人一人が服用している薬、副作用の把握に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の生活歴、趣味を把握し家事、レク、外出、買物等の支援に努めている。		

グループホーム 共栄の郷

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2Fうらら)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご本人の要望に応じて外出できるよう努めているが、天候や状況により翌日等にずれる時がある。普段行けないような場所については普段の会話から行きたい場所等を伺い、面会時ご家族に説明、了承を得てから外出を行っている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理ができる入居者様はご家族と相談の上、自己管理して頂いている。普段金銭管理していなくても外出時レジでの支払い、お釣りの受け取りが可能な場合はお財布を持って頂き使えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人からは遠慮があつてなかなか言い出せない場合がほとんどの為、職員から声掛けや促しを行うよう支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	物が乱雑にならないように配慮し、常に清潔を保持できるように心掛けている。皆が集うリビングでは一緒にテレビが見易く談話し易い家具配置を工夫している。季節ごとに花を飾ったりして居心地良く過ごせるように工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食卓テーブルでは気の合うもの同士が座れるよう、ソファではゆっくり新聞が読めたり横になれるよう、台所は間口を広くし家事の作業台を置き入居者様が使いやすいよう工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の時に馴染みの家具、持ち物を持参されるよう伝え、本人が落ち着ける居室で過ごせるよう支援している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室前には表札を付け、トイレの鍵は判りやすいように、開ける閉めると表示、ドアは開けやすいように引き戸になっている。		

## 目標達成計画

事業所名 グループホーム 共栄の郷

作成日：平成 25年 2月 11日

市町村受理日：平成 25年 2月 12日

## 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	地震などの災害時の地域の協力体制作りが未だ十分とは言えず、災害時用の備蓄品の準備も不十分で、職員の救急救命訓練も全員が受講出来ていない状況である。	地震や夜間の火災など、災害時に地域の協力が確実かつ速やかに頂けるよう、その体制づくりを早急に進めたい。又、災害時用の備蓄品の確保や、全職員の救急救命訓練の受講も迅速かつ計画的に進めたい。	①1月24日に開催された運営推進会議で、2月か3月中に夜間を想定した避難訓練を行うので、詳細が決まり次第、役割を含めた協力をお願いに改めて伺う予定であることを報告した。 ②法人やスタッフは勿論地域で協力して頂ける方々も含めた緊急連絡網を作成する。 ③災害時用の備蓄品類については、外部評価当日中に災害用の飲料水を準備したのを始め、必要物品のリストアップや、収納場所を含めた準備を行う。 ④職員の救急救命訓練については、避難訓練時に消防署員の指導の下一人でも多くの職員が受講できるよう体制を整えると共に、法人と協議の上、白石区の防災センターで開催される研修も、合わせて積極的に受講して行きたい。	①②③については6ヶ月 ④の防災センターの研修については2～3年 消防署員による受講は1年
2					
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。